



Key Person Interview

医学・医療への貢献から、健康行動の促進まで
**医療情報の利活用で、
新しい価値創造を**

MIYAMAN'S column

**我が国の
新型コロナウイルス対策にみる病**

我が国の新型コロナウイルス対策にみる病



11月6日から7日、国内外より感染症対策に関連する行政機関・団体・学会など、産官学のステークホルダーをバシフィコ横浜に集め、第7回日経・FT感染症会議を開催した。2014年から日経アジア感染症会議として立ち上げ、毎年パンデミックに対する備えとアジアの感染症を解決するための官民協力(P3)プログラムを提案してきた。人類の歴史を考えれば、感染症対策こそ文明の盛衰や各国の経済の浮沈を決めてきた。感染症への良き備えのある国が栄えるのだ。時には物事を巨視的に考えると、今やるべき事が見えてくる。バイオベンチャーの創業も歴史観の裏付けのある先見性が必要である。

会議では我が国の新型コロナ感染症対策の総括(中間評価)を行った。我が国政府の感染症対策を科学的に支えてきた尾身茂地域医療機能推進機構理事長が、日経・FT感染症会議の議長を務めており、内情に触れる議論となった。以下が指摘された問題点である。1)パンデミックに対する準備不足、H1N1インフルエンザの流行の報告書は策定されていたが、紙では記憶や危機感を伝えきれなかった。2)欧州からの第二波を阻止できなかった水際対策。3)臨床検査の標準化と品質管理が未確立。4)PCR検査のキャパシティ不足と法定検査への拘泥。但し、検査数と感染抑制

には整合性がなかった。5)現場の情報が意思決定部署と十分共有できなかった。6)IT基盤と情報活用の制度が未整備だった。7)HER-SYSなどデータ共有システムの機能不全。8)プライバシーと公共の福祉のバランスに関する国民とのコンセンサス不足。9)感染対策を構築するために必要なClinical Questionを解く研究組織未整備。10)オールジャパン体制の構築の遅れ。当初は厚生労働省のみが対応していた。11)専門家と意思決定者の不明確な責任分担。12)マスクや診断試薬などは海外に過度に依存。13)リスクコミュニケーション不十分。14)特にパンデミックが慢性化した時期に必要な感染症対策の意思決定への市民参画が不十分、などである。これらを一言でいえば、我が国の国家としてのガバナンス不全だ。この病を規制緩和と民間活力の導入で治療しなくては、この冬の流行第三波に対応することも覚えない。



宮田 満 氏

東京大学理学系大学院植物学修士課程修了後、1979年に日本経済新聞社入社。日経メディカル編集部を経て、日経バイオテク創刊に携わる。1985年に日経バイオテク編集長に就任し、2012年より現職。厚生労働省厚生科学審議会科学技術部会委員、日本医療研究開発機構(AMED)革新的バイオ医薬品創出基盤技術開発事業評価委員など、様々な公的活動に従事。

LINK-Jの主な活動と日本橋ライフサイエンス拠点の集積(2020.7-2020.10)

- 毎週金曜 **イベント** 「Out of Box 相談室:LINK-J主催 研究成果実用化育成支援プログラム」開催
- 毎月1回 **イベント** 「WOMB Business Incubator #4-6」共催
- 2020.07.01 **イベント** 「L×T bridge アフターコロナへの挑戦～シリーズ1 起業のエッセンス～ vol.4」主催
- 2020.07.13 **イベント** 「慶應義塾大学発 医療系ベンチャー創出に向けて 2020」主催
- 2020.07.14・28 **イベント** 「PreStartup in Nihonbashi」共催
- 2020.07.20 **イベント** 「AMED次世代医療機器連携拠点整備等事業 関東3拠点合同シンポジウム」共催
- 2020.08.13 **プレスリリース** 「『メドテック・イノベーションピッチ』ピッチ登壇者募集開始」
- 2020.08.19 **イベント** 「L×T bridge アフターコロナへの挑戦～シリーズ1 起業のエッセンス～ vol.5」主催
- 2020.08.26 **イベント** 「L×T bridge グローバル編vol.2」主催
- 2020.08.26 **プレスリリース** 「Oxford University Innovation(OUI)とMOU(提携に関する覚書)を締結」
- 2020.09.07 **プレスリリース** 「大阪府とライフサイエンス領域に関する相互提携の覚書を締結」
- 2020.09.07 **プレスリリース** 「LINK-J 関西でライフサイエンス領域の交流・連携促進を本格始動 三井不動産 大阪に新拠点『ライフサイエンスハブウエスト』を開設」
- 2020.09.12 **イベント** 「若手研究者のためのスタートアップによるキャリアフォーラム」主催
- 2020.09.15 **イベント** 「経済産業省主催 投資家がバイオベンチャーに求める非財務情報の開示とは？」共催
- 2020.09.23 **イベント** 「L×T bridge 厚生労働省による医療系ベンチャー支援 ～MEDISOの実像と展望～」主催
- 2020.09.23 **プレスリリース** 「神奈川県とライフサイエンス領域に関するMOU(提携に関する覚書)を締結」
- 2020.09.28 **イベント** 「第3回 デジタルヘルスセミナー」主催
- 2020.10.07 **イベント** 「世界最強の『デジタルヘルス大手企業』が誕生!? アメリカデジタルヘルストrend・現状&未来」主催
- 2020.10.09 **イベント** 「JSTの若手研究者支援の取り組みとJST事業発ベンチャーの挑戦～」主催
- 2020.10.14-16 **出展・参加** 「BioJapan 2020」に三井不動産と共同出展
- 2020.10.26 **お知らせ** 日本橋ライフサイエンスビルディング10階会議室が新たにオープン

Key Person Interview

医学・医療への貢献から、健康行動の促進まで

医療情報の利活用で、新しい価値創造を

レセプト、電子カルテ、DPC、調剤データなど、診療の現場で発生するデジタルデータ。これら膨大な医療情報をデータ解析することで、新しい治療法の研究、健康寿命の延伸、医療サービスの質の向上、医療費の抑制などに役立てることが期待されています。しかし日本では、医療情報の利活用がなかなか進んでいないのが現状です。そこで問題点と課題解決の糸口を探るため、東京大学医科学研究所教授の中井氏、医療情報サービス会社ブルーブックスの志茂氏、ボストン コンサルティング グループ (BCG) の泉氏と西田氏の4人にオンラインでお集まりいただき、座談会を開催しました。

利活用が進む 医療やゲノムの情報

西田 LINK-Jサポーターで、本日ファシリテーターを務めます西田です。本日は「医療情報の利活用の課題と展望」について、皆さまと議論を進めてまいります。私はBCGでヘルスケア領域を担当していますが、医療情報やデータの活用は今、どのようなトピックの議論でも必ず触れられるテーマです。ではまず、お一人ずつ医療情報との関わりをお話してください。

泉 私はBCGのデータサイエンスの専門組織、GAMMAに所属し、AIやデジタルを専門としています。BCGでは業界を担当するコンサルタントと私たちデジタル部門が密接に連携していて、西田とはリアルワールドデータ (RWD) を使った新しい価値創造を目指して協働しています。今回の座談会には、とある研究会がきっかけで知り合った中井先生と志茂社長をお話ししました。

中井 私は理学部の出身で、2003年から東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターの教授として、ヒトゲノム解析やその方法論の開発などに携わっています。専門はコンピュータ解析で、私自身は医療情報に直接関わっているわけではありませんが、医療情報とゲノム解析を組み合わせることで生活習慣病の原因を探ろうとする沖縄県の「久米島デジタルヘルスプロジェクト」に感銘を受け、同プロジェクトに参画している志茂社長に私の経験や知見をお伝えしている次第です。



中井 謙太氏

東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター 機能解析イン・シリコ分野 教授

京都大学理学部卒業。京都大学博士号取得。京都大学化学研究所助手、岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所助手、大阪大学細胞生体工学センター助教などを経て、2003年より現職。コンピュータを使ったゲノム情報や遺伝子産物の機能解析を行うバイオインフォマティクスの研究を行っている。再生医療、免疫学、発生生物学などの分野における最先端の研究者との共同研究も展開。

志茂 株式会社ブルーブックス社長の志茂です。当社は沖縄で健康・医療情報の収集・活用サービスを行い、医療現場の効率化、医療の質の向上、患者さんの健康づくりへの貢献を目指しています。今、中井先生からご紹介いただいた「久米島デジタルヘルスプロジェクト」は、医療データを活用し生活習慣病を改善・予防するための実証事業なのですが、島民のデータを分析すると幼少期から腎機能の数値が思わしくない人が多いことがわかり、遺伝的な原因もあるのでは、との仮説からゲノム研究も行われることになりました。

西田 それぞれ異なる立場から医療情報やゲノム情報に携わっているメンバーで議論を進めていきます。それでは最初に、これまでのゲノム情報や医療情報の発展の経緯やデータ利活用の現状をお聞かせいただけますか？

中井 ゲノム情報は、ヒトゲノムプロジェクトが完了した2003年以降、次世代シーケンサーの進展や大幅なコスト低減に伴い、膨大な情報の蓄積が進んでいます。近年はゲノム情報をもとに、付加的なエピゲノムの情報やプロテオーム、メタボロームなどのデータを組み合わせ、総合的に生命情報を理解するマルチオミックスの研究が盛んになっているところです。

志茂 当社の例で医療情報収集の経緯をお話ししますと、我々は2011年から沖縄でビジネスを展開しています。沖縄は、海に囲まれているため県外医療機関の受診は限定的で、県民の定住性も高いなど、密度の高いデータを継続的に蓄積していく上で好条件が揃っています。加えて、長寿県として知られていた沖縄が近年は生活習慣病のせいで短命化していることに自治体や地元医師会が危機感を持っており、医療情報の活用に前向きな姿勢がありました。こうした背景から我々は医療機関や自治体とのシステム連携を実現させ、発生した医療データを自動で取り込むシステムを構築しました。現在は、氏名・生年月日・住所・性別から構成されるユニークIDを100万ID以上蓄積し、20年前までさかのぼる500万件の医療データ、570万件の画像データを保有しています。一部ゲノムデータの収集も行っています。

データ利活用の状況としては、「病院間での患者さんデータの共有」「患者さん本人による自身の医療・健康データの閲覧・記録」「アカデミアや企業の研究利用」が3本柱となっています。売上構成で見ると研究利用が主軸で、個人々の診療履歴を20年にさかのぼって追跡可能だという点が評価されています。

情報を組み合わせることで 個々人に最適な医療が実現する

西田 今後さらに医療情報やゲノム情報の利活用が進むと、医療

やヘルスケアにどのような影響を与えるのでしょうか？

中井 ブルーブックスさんが手掛けているように、RWDにゲノム情報が加わるとゲノム上の特徴と病気の関係性を統計的に調べる「GWAS(ジークワス、ゲノムワイド関連研究)」が行えるようになります。病気は単一遺伝子が原因ということは稀で、複数の遺伝子や環境要因が複雑に絡み合う多因子性疾患がほとんどですから、発症のメカニズム解明や予防、治療法開発につながるGWASには期待が寄せられ、多数のボランティアにご協力いただきながら、ゲノムの大規模なコホート研究が近年国内外で盛んに行われています。こうした研究をもとに「個別化医療」あるいは「精密医療」などと呼ばれる個々の患者さんのゲノム情報に基づく医療も発展しています。例えば特定のレセプターが変異を起こしている患者さんだけに効くがん治療の分子標的薬などは、その一例ですね。

「個別化医療」や「精密医療」は発症後の治療に関する話ですが、遺伝的素因や日頃の健康情報などから将来の発症を予測し、発症する前に適切な治療的介入を行う「先制医療」も発展してきています。

西田 データ解析により発症前に病気の予測をし、適切な介入により病気を未然に防ぐことができれば、ビジネスの観点でのインパクトは大きなものになります。この点で医療情報利活用の成果を上げているのが、アメリカですね。アメリカでは個人の医療費負担が大きいため、保険者がデータアナリティクスを活用して、会員データの中から心不全のような重篤で費用負担も大きい病気にかかる人の共通項をセグメントし、どのタイミングでの介入が効果的か分析することで、重症化を防ぎ、数百億円分もの医療コストを最適化しています。

志茂 別の視点ですが、私はこの先、企業のRWD活用が進めば、人々に行動変容が見られるようになるのではと期待しています。現状ではいくら健保組合などが「健康のために」と訴えても、1日たった5分の習慣でさえ、付け足すことも減らすことも非常に困難です。ところがスーパーで今晚のメニューを考えているまさにその瞬間、自分の健康管理に役立つ情報として「これを食べては？」とレコメンドが提示されれば、それを選ぶ可能性が高い。消費行動＝健康行動になるのです。食品会社や化粧品会社などに医療情報を活用してもらうことが重要だと思っています。



志茂 英之氏

株式会社ブルーブックス 代表取締役/CEO

駒澤大学文学部社会学科卒業。矢野経済研究所(健康・スポーツ担当)、積水化学工業株式会社(センサー技術に応用したホームヘルス担当)、セゾングループなどを経て、2002年3月に株式会社ブルーブックスを設立。沖縄県内の自治体や医師会と連携し、約100万人の医療データベースを構築するほか、匿名加工した健康・医療情報を研究機関やアカデミアが活用できるサービスを開発している。



西田 庄吾氏

LINK-Jサポーター
ボストン コンサルティング グループ マネージング・ディレクター&パートナー

東京工業大学工学部を卒業後、日産自動車株式会社を経て2005年にBCGに入社。ヘルスケアグループ、および組織・人材グループのコアメンバー。主として製薬企業や医療機器メーカーに対して、グローバル戦略の策定・実行支援、組織再編、システム統合、デジタルトランスフォーメーション、研究開発の生産性向上、生産・オペレーション改革、営業・マーケティング戦略、デジタルを活用した新規ビジネス構築などの支援をしている。

日本で医療情報の利活用が 進まない理由とは

西田 医療情報の利活用が進めば、いろいろな展望が開けることが皆さまのお話からわかりました。しかし一方で日本ではデータ利活用がなかなか進まないという課題があります。何が障壁になっているのでしょうか？

泉 データを扱う側の立場からすると、まずデータが個別の医療機関や健康保険組合、国民保険を扱う市町村などに分散していて、活用しづらい状況があります。

志茂 那覇市医師会は、自分たちが得た医療データを有効活用して県民・市民に返したいという想いがあるため当社に協力くださっていますが、これは例外的な対応で、医療情報を他社に渡すことに抵抗を感じる医療機関や医師会がかなりの割合で存在しているのも事実です。我々も当初3年かけて理解を得てきた経緯があり、また情報漏洩事故をこれまで10年間起こさないことで、信用を高めてきました。

泉 利活用したくても目的に合うデータが揃っていない、あるいは第三者機関に情報を提供するのには目的外利用になってしまうといったケースもあります。ですからまず社会に還元したいデータ活用のテーマを検討し、ビジネススキームを構築し、その目的に合うRWDを蓄積できるプラットフォームを作る必要があります。また、どのような同意を取れば二次利用が可能なのか制度上グレーな部分もありますから、制度の整備も必要です。

志茂 その通りですね。企業からの医療情報の利用ニーズは高いのですが、現状では被験者に同意を取れるのはアカデミアの研究目的に限られ、直接企業にデータを提供できる環境にはありません。制度改正や規制緩和など行政のバックアップが得られると、より柔軟な利活用が進むと思います。

西田 アメリカで保険者がリードしてRWDを活用しているのは、会員が健康であれば保険料をそのまま利益にできるというインセンティブが強く働いているからです。もちろん会員は健康でいられ

Key Person Interview

ますから、お互いにwin-win.とところが国民皆保険で患者自身の医療費負担が少ない日本では、医療コストが国の財政を圧迫しているのにも関わらずなかなかインセンティブが働きません。RWD活用の財政的な意義が国内でもっと認識されると、状況が変わるのではないのでしょうか。

泉 もう一つ、医療データを扱える人材が圧倒的に不足していることも課題です。学界では中井先生をはじめ多くの研究者がゲノム情報を扱い研究成果を上げているのに比べ、医療業界周辺ではまだ、医療情報を使える人材が非常に少ない。医療業界はこれまで医療統計など特殊な解析方法に特化してきましたが、今はAI、ビッグデータなど新しい技術がどんどん入ってきているので、それを使って価値をつくっていかなければ、諸外国との競争に勝てないと考えています。

西田 医療データを扱える人材とは、具体的にどのようなスキルを持った人材を言うのでしょうか？

泉 要件としては医学・薬学、医療制度、倫理、データサイエンスの知識があり、データを加工するエンジニアリングの経験があり、さらにそれを価値に変え、実装に結びつけられるビジネススキルがあることですね。でもその一つひとつが奥の深い領域ですから、すべての技能を備えている人はいないでしょう。実際には、自分の専門性に加えて他領域にも理解のある人材を集め、多業種連携チームを組むこととなります。

データを自由に使える環境づくりとデータ精度の向上がカギに

西田 ここまで挙げられた課題の解決に向けて、皆さまのお考えや今後実現したいことをお聞かせください。

志茂 プラットフォーム整備の観点で、当社は個人情報を統計によって匿名加工する基盤を開発中です。研究者に研究テーマを定義していただき、その演算結果のみを出すもので、「匿名加工すれば個人を追跡することはできないため、個人情報の提供には当たらない」と法律でも解釈されています。研究者が使いたいデータ



泉 晃氏

ポストン コンサルティング グループ
GAMMA アソシエイト・ディレクター

筑波大学経営学修士(MBA)。IBM、リクルート、デトロイトトーマツを経て、2019年、BCGに入社。AI、データサイエンス、デジタルを活用した企業のトランスフォーメーションを支援。また医療データの業界標準ルール形成や、地域・大学・病院・民間企業を巻き込んだ新ビジネススキームの形成にも取り組む。あわせて、データ・デジタル人材の獲得・育成も手掛け、京都大学大学院では特命准教授として医療データサイエンティスト講座を立ち上げ、講座を受け持つ。

指定できるよう、データのライブラリー整備も計画しています。

泉 私はデータサイエンティストの育成に関わっておりますので、価値創出のテーマを自分で考え、最新技術をうまくマッチングさせて医療情報を活用できる人材を育てたいですね。AI人材を多数輩出しているインキュベーション施設で学生に尋ねたところ、半数以上がヘルスケア領域でAIに取り組みたいと希望していました。ヘルスケアは社会や個人に価値を還元できる領域ですね。ところが、彼らが活躍できるフィールドやデータが整っていない。ですから、人材育成とフィールド作りを同時並行で進めなければいけません。

西田 人材などの基盤が重要だと思いますが、データ分析が進んでいるアカデミアの人材をビジネス側で活用するなど連携強化はできないでしょうか？

中井 データを自由な発想、新しい目で解析することが大事で、例えば医療とはまったく異なるバックグラウンドを持つ学生が医療データを自由に解析することができれば、独創的な研究の芽が生まれるかもしれません。そのようなシーズをアカデミアと企業で共同研究することも考えられます。ただ医療データの取り扱い情報は倫理が厳しいので、その点は十分に注意しなければなりません。

泉 中井先生がおっしゃる通りRWDをビジネスの中で実装させるには、データを自由な発想で使える環境づくりが求められますね。それと同時にデータの精度向上の二軸で取り組む必要があります。自由に使える環境ということでは、NDB(レセプト情報・特定健診等情報データベース)オンサイトリサーチセンターを発展させたような形や、志茂社長が取り組んでいる匿名加工、データジェネレーションなどが考えられます。精度面では、倫理、セキュリティが担保されたデータ環境を整備しなければなりません。そして、国民がRWDのメリットを享受できるよう、身近な製品やサービスに落とし込むことが必須です。

志茂 本人の利便性向上という視点を織り交ぜることが、データの利活用推進には欠かせません。例えば当社のデータを使えばフリマアプリで匿名での商品売買が容易になるなど、医療・ヘルスケア分野以外での活用の可能性も広がっています。このように多彩な活用があること、また行動変容につながる可能性があることを、多くの方にご理解いただきたいですね。

中井 医療情報の分析は欧米で先行していますが、欧米の研究成果がそのまま日本人に当てはまるとは限りませんので、やはり日本は独自に研究を行う必要があります。ブルーブックスさんの事業などが成功体験として認識され、医療情報利活用に弾みがつくことを願っています。

泉 LINK-Jは最近、大阪道修町に「ライフサイエンスハブエスト」を開設されたとのこと。本日の座談会で浮き彫りになった課題の解決に向けて、今後はLINK-Jが、東西2拠点の人的ネットワーク、企業間ネットワーク、産官学ネットワークを通じて、集合知を作る場になることを期待します。

西田 私からは医療経済性の話をさせていただきましたが、それを実現するために、ケイパビリティ(組織能力)を獲得するという面でも、行動変容を起こすという面でも、複数のプレイヤーが連携することが重要だと改めて感じました。本日は示唆深いご議論をありがとうございました。

Pick Up Event

LINK-Jが主催・共催する今後のイベント情報をお知らせします。第一線で活動するライフサイエンスプレイヤーの皆様をお招きし、様々なテーマのイベントをご用意しておりますので、万障お繰り合わせのうえ、ぜひご参加ください。

Oxford Evening Series vol.2 (LINK-J - Oxford University Innovation - Oxentia 共同開催プログラム)



LINK-J - Oxentia - Oxford University Innovation 共同開催プログラム

Oxford Evening Series Vol.2

オープンイノベーションの事例と課題

日時:2020年12月11日(金)時間未定
会場:オンライン中継(ZOOMにてライブ配信)

「Oxford Evening」シリーズは4回にわたり実施され、エコシステム運営・オープンイノベーション・知財戦略・グローバル戦略について、毎回一線のビジネスコンサルタントやスタートアップ企業を招き講演を行います。モデレーターは、Oxentiaシニアコンサルタント兼、LINK-Jサポーターでもある松永昌之氏が全シリーズを務めます。

第1回:2020年11月6日(金)開催済
第2回:2020年12月11日(金)
第3回:2021年1月13日(水)
第4回:2021年2月4日(木)

<https://www.link-j.org/event/post-3101.html>

Advanced Therapy Showcase in Tokyo#1



日時:2021年1月21日(木)8:30-18:00
会場:オンライン中継(ZOOMにてライブ配信)

ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)は新たにパートナーシップ支援イベントシリーズ「Advanced Therapy Showcase in Tokyo」をスタートいたします。再生医療、細胞治療、遺伝子治療他、先端医療にかかわる諸団体、個人の方々のパートナーシップ活動を支援いたします。

登壇者:
岡野 栄之(LINK-J理事長/慶應大学医学部百寿センター センター長・医学研究科長)
志鷹 義嗣(一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム(FIRM) 代表理事副会長/Astellas Institute for Regenerative Medicine (AIRM) 社長)

<https://www.link-j.org/event/post-3026.html>

第4回 デジタルヘルスセミナー



日時:2020年12月10日(水)14:00-16:00
会場:オンライン中継(ZOOMにてライブ配信)

関西医薬品協会では「関業協ビジョン2025」の柱の1つ「イノベーション」の観点から、近年、活発化しているデジタルヘルスやビッグデータ、AIなどの製薬企業の取組みへの支援を開始しています。今般、第4回目のセミナーとして大阪大学の八木 康史 氏、株式会社エクサウィザーズの石山 洸 氏、DeSCヘルスケアの三宅 邦明氏をお招きしてご講演いただきます。また、各講師のご講演後に当協会ビジョン実現タスクフォースのイノベーション担当責任者の坂田 恒昭 氏(塩野義製薬株式会社)を座長としてパネルディスカッションを行います。

<https://www.link-j.org/event/post-3008.html>



AMED老化メカニズムの解明・制御プロジェクト 「国内老化研究機関・連携推進会議」プログラム

AMED老化メカニズムの解明・制御プロジェクト
老化研究の最前線(2)『国内老化研究機関・連携推進会議』
第一部 (一般公開) 12/8 火 13:00-15:30 オンライン

日時:2020年12月8日(火)13:00-15:30
会場:オンライン中継(ZOOMにてライブ配信)
<https://www.link-j.org/event/post-3071.html>



医療分野研究成果展開事業産学連携医療イノベーション創出プログラム(ACT-M/MS) 第3回成果発表会

医療分野研究成果展開事業
産学連携医療イノベーション創出プログラム(ACT-M/MS)
第3回成果発表会
12/15 火 13:30 - 17:20

日時:2020年12月15日(木)13:30-17:20
会場:オンライン中継(ZOOMにてライブ配信)
<https://www.link-j.org/event/post-3011.html>



LINK-J WEST 関西で 本格始動

9月7日、大阪にLINK-J WESTの拠点 「ライフサイエンスハブウエスト」が誕生!

～イノベーション創出促進へ、メディアも注目～

東京・日本橋を拠点にライフサイエンス領域のオープンイノベーションを促進してきたLINK-Jは、このたび関西での活動を「LINK-J WEST」として本格始動させました。同時に、オープンイノベーションの場の提供を担う三井不動産は、“くすりの街”として古くから知られる道修町にほど近いビルを大阪の新拠点として整備し、9月7日、「ライフサイエンスハブウエスト」を開業。同日、新拠点のお披露目を兼ねた記者説明会が行われました。

記者説明会レポート

記者説明会では、まず東京に同時中継で繋いでLINK-J岡野栄之理事長が挨拶を行い、続いて副理事長の澤芳樹大阪大学大学院教授が、コロナ禍でライフサイエンス・イノベーションへの期待がますます高まる中でLINK-J WESTが果たすべきミッションについて、決意表明を行いました。三井不動産の植田俊常務からはLINK-Jが東京・日本橋でこれまで行ってきた活動成果の報告とLINK-J WESTの活動についての紹介があり、弘中聡関西支社長からは三井不動産が行ってきたライフサイエンス拠点整備の実績ならびに「ライフサイエンスハブウエスト」の施設概要が紹介されました。

LINK-Jと大阪府はこの記者説明会に先立って、ライフサイエンス領域におけるイノベーション創出を目的とした相互提携の覚書を締結。来賓の大阪府山口副知事からは、連携による新産業創出への期待を寄せていただきました。

また、京都大学IPS細胞研究所所長の山中伸弥教授と株式会社ビジョンケアの高橋政代代表取締役社長からも、ビデオメッセージでエールをいただきました。

記者説明会への出席メディアは、16媒体26名。テレビ、一般紙、通信社から、ライフサイエンス系業界紙、不動産系業界紙まで幅広いメディアが関心を示し、当日夕方のニュース報道や紙面・ウェブ媒体で好意的に取り上げられました。

ライフサイエンス分野の日本の競争力強化のカギとされるのが、オープンイノベーション。そのプラットフォーム役を担うLINK-J WESTへの関心の高さが、メディアの反応からもうかがえました。



LINK-J 副理事長 /
大阪大学大学院医学系研究科
外科学講座 心臓血管外科教授
澤 芳樹 氏

コロナ禍で、ライフサイエンス・イノベーションがより求められる時代です。関西の大学などが持つシーズを製品化につなげ、東京とも連携し、世界にライフサイエンスを発信する拠点となります。



LINK-J 理事長 /
慶應義塾大学医学部 生理学教室 教授
岡野 栄之 氏
※東京より同時中継

東京・日本橋でのイベントが昨年500超を数えましたが、今後はLINK-J WESTとして関西でも積極的にイベントを開催していきます。大阪と東京の同時中継により東西の交流促進も図ります。



三井不動産
取締役常務執行役員 / LINK-J 理事
植田 俊 氏

LINK-Jは設立4年半を迎え、東京日本橋では2019年に518回のイベント開催を行い、会員数も441(2020年9月7日時点)となりました。LINK-JWESTの始動により、東京日本橋でつちかかったLINK-Jの「交流・連携」「育成・支援」の機能を大阪、そして関西において展開いたします。



三井不動産
常務執行役員 関西支社長
弘中 聡 氏

三井不動産は、今まで東京日本橋にライフサイエンス拠点を作ってきました。これまで東京日本橋で培ってきたノウハウを生かし、関西でも「産業創造」を通じた地域の活性化を目指すべく、西のくすりの町である大阪道修町にほど近いこぎ御堂筋三井ビルディング内に「ライフサイエンスハブウエスト」を開業いたしました。ここ大阪で、関係者が集い交流する場となることを願っています。



[来賓]
大阪府副知事
山口 信彦 氏

大阪府はライフサイエンス分野の集積という強みを活かして、健康・医療関連産業の推進に産学官一体で取り組んでいます。今後はLINK-Jとの連携により、一層のイノベーション創出を期待しています。

LINK-J WEST

LINK-J(ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン)は、東京・日本橋エリアを拠点にライフサイエンス分野に従事する人と情報のプラットフォームとしての役割を担ってきましたが、この度、東京・日本橋で培った機能を大阪、そして関西でも行うため立ち上げられたのが、LINK-J WESTです。

LINK-J WESTの活動では、関西のライフサイエンス領域の産学官のプレーヤーをつなぐ交流・連携イベントをこの度開設した新拠点「ライフサイエンスハブウエスト」で開催し、人材や事業の育成・支援プログラムも手掛けることで、関西アカデミア発のシーズの事業化促進や、ベンチャー企業と関西を拠点とする製薬企業、ベンチャーキャピタルとの橋渡し役を担っていきます。さらにはオンライン中継による東京・日本橋との双方向イベントを行うことで東西の連携を促進し、最先端情報の共有化を図ります。



What's LINK-J WEST

<https://www.link-j.org/about/west/>



ライフサイエンスハブウエスト

大阪で「くすりの街」とし栄えてきた道修町には、現在も製薬工業協会に加盟する企業・団体が多く集積しています。ライフサイエンスハブウエストは、そんな道修町から徒歩圏内、地下鉄・本町駅から徒歩1分の立地に開設されました。



カンファレンスルーム

- *東京・大阪を双方向で同時中継することができ、情報発信の場として機能
- *LINK-J会員は、東京、大阪のどちらでも利用可能

コミュニケーションラウンジ

- *ライフサイエンス業界関係者の交流の場として機能
- *短時間の打ち合わせや、休憩場所としても利用可能
- *オープンなイベントスペースとしても利用可能。カンファレンスルーム同様、東京・大阪間の同時中継機能有り

サービスオフィス

- *関西のベンチャー企業や東京の企業のサテライトオフィスとして、オフィス家具や機器、Wi-Fiなどのビジネスに必要な機能を完備
- *1名用から7名用まで、必要に応じた広さの選択が可能で、ベンチャー企業の需要に応じたオフィスを提供

■所在地

大阪府大阪市中央区備後町4-1-3
御堂筋三井ビルディング4階

■アクセス

大阪メトロ御堂筋線・中央線
「本町」駅【2番出口】より徒歩1分